

えんがわ

2019年9月1日発行 出雲市古志町 344 社会福祉法人ことぶき福祉会 『笑庵ことぶき』 発行責任者:施設長 加田 誠 TEL:(0853)25-7701 FAX:(0853)25-7702

Mail:shouan@carol.ocn.ne.jp

昼寝をされていたTさん。この日はいつもより早めに起きられ、「何手伝うだ?」 とホールに出てこられました。続けて起きられたYさんも「何かすることがあれば するよ」と言われ、二人に扇風機の掃除をお願いすると、とてもきれいに拭きあげら れました。

笑庵では、よくお年寄りさんのほうから「何かできることがある?」という声が上 がります。そして、自ら気が付いて掃除や洗濯物の片付けなど身の回りのことをさ れます。それは笑庵が「生活の場」であることの裏付けではないかと思っています。

私達は、常に「主体はお年寄りさんである」ということを念頭に置きながら関わっ ています。毎日の生活の流れを施設の側から決めないこと、お年寄りさん自身で意 思決定のできる環境を作ることを大切にしています。危ないから、と制限したり、出 来ないから、とこちらが勝手に判断したり決めつけたりするのではなく、何かをし たい、役に立ちたいという利用者さんの気持ちと声を大切にしていくことが私たち 福祉労働者に求められる専門性ではないでしょうか。

ゆったり、のんびりと、家庭的な雰囲気の中で利用者さんがたくさんの役割を発 揮できるのがことぶき福祉会です。そういった中でこそ、いきいきと、それでいて穏 やかな日々を送ることができるのだと思います。今一度自分たちの関わりを振り返 り、皆さんの実りある生活を守るための実践をしていきたいと思います。





先日、子供が入院し、付き添いをした時のことです。隣のベッドの子は足を骨折している子でした。歩行器で歩く練習をして、家に帰って生活ができるようにリハビリをしているようでした。その子は歩行器での歩く練習が嫌なようで、時々、看護師さんに「車椅子に乗りたい。」と甘えているようでした。

その時の対応が看護師さんによって違いました。A看護師は、「早く家に帰りたいよね?だから歩行器で歩く練習がんばろうか。」と歩行器を用意します。B看護師は、「うん、わかったよ。」とすぐに車椅子を用意します。その関わりの違う会話を聞いて、私自身考えさせられるものがありました。

ことぶき福祉会のケアテーマの中に『生活リハビリを大切に』というものがあります。 日々の生活の中で、リハビリを見つけてそれを大切しながら身体の機能低下を防ぐという ものです。例えば、お風呂に入って体を洗う時に、何とか手を伸ばして洗えるところは自 分で洗い、届かないところは職員が手伝っています。それを職員が最初から手を出してし まっていては、自分で体を洗うことが出来なくなってしまうでしょう。そんな一つ一つの 行動に対して、その方のできる力を見極めることがとても大切だと思います。

A看護師のように、その方のためにどうすることが必要かを理解し、今ある自分自身のできる力を、少しでも続けて生活を送ってもらえるように、心掛けていきたいと思います。

笑庵ではお年寄りさんが食事を作られることがあります。

先日は餃子を作りながら、「餃子おいしいが。うちも昔は作ってたよ。」と I さん。「この前お盆でうちに帰った時 100 個くらい作ったよ」とMさん。 T さんも「前はうちでも 100 個くらい作ってたよ。余ったら冷凍してね」と。家族のために甲斐甲斐しく食事を作られる母親としての姿が浮かぶようでした。

またある日には、なすびときゅうりで漬物を作ろうと皆さんが寄ってこられ、皮を剥く人、野菜を切る人など自然に役割分担をしながら作られました。できた漬物をつまみながら、「昔は手前で漬物作ったもんだが」などと話も弾み和やかな雰囲気で昼食を迎えました。

利用者さんにとって楽しみの一つでもある食事ですが、食べるだけでなく自分たちで作る喜びを、感じられる時間となりました。お腹だけでなく、心も満たせるような食事の時間を大切にしていきたいです。